



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月~3月)

個人/3,000円以上

法人/10,000円以上

第38回通常理事会開催

次年度事業概要を承認 各事業着実に歩みを進めて

小論文コンテスト・韓国延世大学校で開催・中国中央民族大学にて再開

友愛ユニオンの事業参加が増加 着実な次代への継承

第38回通常理事会が開催され、次年度(2025年度)に向けての新たな事業展開について話し合いが行われた。小論文コンテストの韓国国内での開催及び中国での再開、ミャンマーの農業支援事業でのリーフレットの配布について、OEJAB派遣員の選考に面接を継続することなど、新たな展開が提案され、熱心な協議が続いた。次回理事会において、今回の協議内容を盛り込み、事業計画・事業予算を改めて協議することが確認された。

2025年2月14日(金)午後6時より第38回通常理事会が開催され、各事業の現状報告を始め、次年度事業計画、事業予算が協議された。

出席者 鳩山由紀夫理事長・井上和子理事・谷藤悦史理事・芳賀大輔理事・井田安信理事・西川伸起理事・攪上哲夫理事・南埜幸信理事・鳩山太郎理事・山口千恵子理事・後藤大智理事

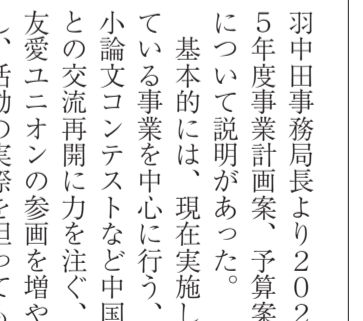
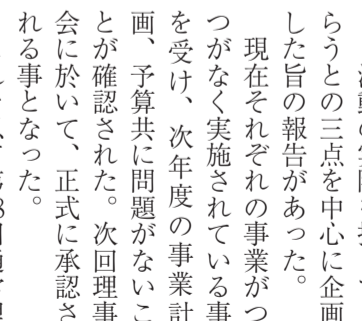
最初に、鳩山由紀夫理事長が挨拶に立った。長が挨拶に立った。理事長挨拶 日頃皆様も、友愛精神を広めるためにご活躍のことと幸いです。また、運営委員の理事の方々は連日、会議を重ねご苦労いただいております。友愛ユニオンの穏やかな笑顔で、友愛ユニオンの活躍を評価。井上和子理事



意見を拝聴予定
2 友愛小論文コンテスト / 攪上理事
— その1 —
東京 / 池袋の、千代田国際語学院において開催予定
2月15日(土) 10時~13時
* 理事挨拶及び友愛紹介
* 友愛ユニオンメンバー(6名)によるスピーチ
* 友愛ユニオンと千代田国際語学院(中国・セネガル・ウズベキスタン)によるテーブルディスカッション
— 2面に詳細記事掲載 —
— その2 —
韓国 / 延世大学校での開催
* 2025年5月17日(土) 予定(16日~18日訪韓)
* 延世大学校140周年記念事業の一環として開催する国際シンポジウムにおいて鳩山理事長が基調講演
* 延世大学校の生徒と友愛ユニオンによるテーブルディスカッションを想定
* 参加の友愛ユニオンメンバーは、5回の勉強会参加。また後藤理事より、小論文コンテストの目的、実施事項等に参加メンバーに周知しているとの説明があった。
併せて戸澤評議員により、韓国を勉強するうえで役に立つ課題図書を選定いただいた件、韓国在住の堀山記者が韓国の現在の世情についてレクチャーいただいたことになっている旨が報告された。
芳賀理事より、韓国の善良なメディアに、延世大学校での友愛の活動について報道してもらうことも、友愛の広報として検討して欲しいとの提案があった。
谷藤理事より、表彰事業

を、将来の友愛の担い手を育てていく、友愛にシンパシイを感じてくれる人を輩出できる方向に進めたいとの意見が出された。
— その3 —
中国での小論文コンテスト再開
羽中田事務局長より、中国との小論文コンテストや植林事業等の復活に向けて、中国国際青年交流センターと打合せを行っていることについて、資料を基に説明があった。中国国際青年交流センターより小論文コンテストについては、文化交流事業として実施して欲しい旨要望があり、実施案を作成、日程を含め先方と打合中であるとの報告がなされた。
理事長より、内容について盛沢山で、もう少し絞ったほうが良い面もあるので、実施や時期について精査して欲しいとの意見があった。
3 OEJABへの派遣事業
— 2面に詳細記事掲載 —
* 12月14日(土)2024年度OEJAB派遣員事前勉強会開催・同日友愛ユニオン勉強会・同窓会開催
友愛ユニオン勉強会・クルド人の難民救済に携わっている弁護士 / 大橋 毅さん
* 2024年度OEJAB派遣員3月1日出発
【3面に関連記事掲載】
2025年度派遣事業
* OEJAB派遣員の参加費を現行5万円から若干の値上げが提案され、全会一致で承認された(8万円)
協議事項
① 2025年度事業計画概要② 2025年度予算
続いて協議事項に移り、

羽中田事務局長より2025年度事業計画案、予算案について説明があった。基本的には、現在実施している事業を中心に、小論文コンテストなど中国との交流再開に力を注ぐ、友愛ユニオンの参画を増やし、活動の実際を担ってもらうとの三点を中心に企画した旨の報告があった。現在それぞれの事業がつつがなく実施されている事を受け、次年度の事業計画、予算共に問題がないことが確認された。次回理事会に於いて、正式に承認される事となった。
これを以て第38回通常理事会は8時20分に終了した。



友愛時評

▼早いもので二十一世紀になって四半世紀、二〇二五年は節目の年である。▼既に様々な特番が放送されている通り、今年NHK開局一〇〇周年に当たる。3月22日は「放送記念日」とされているが、百年前のこの日に「アー、アー、聞こえますか」で始まる初のラジオ放送が流された。その二年前に起きた関東大震災における情報途絶がラジオ放送導入を加速したという。▼また、一九四五年の終戦から八〇年、広島と長崎への原爆投下は今なお深く爪痕を残している。昨年12月にノーベル平和賞を受賞した被団協が求める「核なき世界」への道のりは茫漠とした遙か彼方のままである。むしろ、ウクライナ戦争に対する和平案など第二次対ランブ政権が打ち出す諸政策に世界が翻弄される中、第三次世界大戦の勃発を予測する専門家も四割超に増えたとも報じられている。▼一九六五年六月の日韓基本条約締結から六〇年、両国関係の「還暦」にあたる本年の記念行事に期待を込めていた関係者も多い。尹錫悦大統領が就任してから日韓関係は急速に改善したが、真の友好関係構築に至るには克服すべき課題も少なくない。だが、昨年末の戒厳令宣布による混乱から尹大統領の逮捕・弾劾裁判という状況下、そうした期待はすつかりしほんである。▼東京放送局総裁としてラジオ放送の開始にこぎつけたのは後藤新平であったが、新型コロナや震災復興といった近年の問題への対策が議論される際には先駆者として後藤の名前が常に出てくる。一〇〇年、八〇年、六〇年、と時を経て解決しない問題群を眼前に、後藤のような先見性を持つリーダーの出現をどうしても願ってしまふ。(ヒゲ)

千代田国際語学院池袋校にて開催

国際色豊かな留学生と友愛ユニオンメンバーでのテーブルディスカッション テーマは「日本で感じたカルチャーショック」

「私にとって友愛とは」友愛小論文コンテスト 日本国内で初の実施
2月15日(土)東京池袋にある「千代田国際語学院」(暨南大学校舎)の協力を得て「友愛小論文コンテスト」が実施された。この日は友愛ユニオンメンバーと千代田国際語学院で学ぶ留学生との交流・テーブルディスカッションを中心に実施。後日その経験を基に「私にとって友愛とは」の小論文が寄せられ、優秀作品を表彰し、奨学金を贈る。友愛についての紹介、友愛ユニオンメンバーによるスピーチも行われ、充実した交流の時間がもたらされた。参加者の感想を紹介します。



交流の出発点 となる友愛

浦 彩人

友愛とは、目の前の相手を感じ、受け入れようとする姿勢です。これこそが、他者との交流の出発点です。

今回の交流で、千代田国際語学院の生徒たちと「日本で感じたカルチャーショック」についての議論を行う際、初めはなかなか話を切り出せませんでした。しかし、そこで生徒たちが持っている文化的背景に思いを巡らせ、「知りたい、分かりたい」という意識で会話を始めたことで、文化的差異についての意見交換が活



発になったと感じます。これこそ、「相手を慮る友愛」がコミュニケーションの出発点になった場面です。私は新社会人として過ごしたこの一年で、仕事で関わる人々に対する「友愛」が重要であると思えました。それは、他者との交流の第一歩である友愛の意識を持つことで、初めて一人では成しえないプロジェクトを実行に移せると感じたからです。



別の中国人留学生は、「各種公的な手続きがオンラインで完結せず、役所に出勤が必要があるのが面倒だった」と自身の体験を共有してくれました。公的施設の利用予約がオンラインで申請できるようにするなど、日本の行政も徐々にオンライン化していると思いが、



今回の千代田国際語学院留学生との交流では、日本と自国との違い・日本での生活で感じたカルチャーギャップをテーマにディスカッションを行った。中国人留学生の目線からは、髪型や服装のちがいが多く言及されていたことが印象的であった。例えば、中国では男性の髪型は日本より短髪が好まれること、女性では前髪をつくる髪型はしないことが出されたほか、日本の女性は寒い冬に



「失われた20年、30年」と言われる時代を生きてきた友愛ユニオンメンバー 浦彩人さん 真面目に物事をこなす頼れる存在 次回の韓国にも参加予定



友愛の理念においては、相互の深い理解が必要である友愛ユニオンメンバー 出倉正啓さん 昨年のOJAB受入時も広島、京都に同行 大活躍した



改めて知った中国の先進性

吉田 大志

千代田国際語学院の中国人留学生の一人が、「来日後、インターネットショッピングで買えるものの種類が少ないことに驚いた」と発言した時、私は思わず耳を疑いました。

千代田国際語学院でのディスカッションを通して、改めて中国の先進性を感じることができ、中国社会により一層興味を持つようになりました。

身近な事柄の違いは

出倉 正啓

今回の千代田国際語学院留学生との交流では、日本と自国との違い・日本での生活で感じたカルチャーギャップをテーマにディスカッションを行った。

この経験を、5月に予定されている韓国でのテーブルディスカッションでも生かすし、お互いの文化の相互理解に努めたい。

対話を通して知った日本の新しい側面

成田 葵

友愛ユニオンメンバー 浦彩人さん 真面目に物事をこなす頼れる存在 次回の韓国にも参加予定



ると強く感じます。そんな中で、今日には日本を深く知ろうとしてくれる、友愛精神の土壌がある人が多くいるのを感じて嬉しく思いました。

日中友好の一端を

堆 美優

今回、千代田国際語学院で日本語を学んでいる各国の学生の皆さんと交流を深め、改めてこのような草の

友愛ユニオンメンバー 成田葵さん いつも冷静な大所高所な発言は一目置かれて



友愛ユニオンメンバー 堆美優さん 国際関係論を学び、国際交流の推進に寄りたいと願っている



根の活動が友愛の輪を広げる確実な一歩であることを実感しました。

鳩山先生が築かれた日中の友好関係において、私たち学生も一端を担っていることを誇りに思うと同時に、日中の若者たちが仲良くなり、互いに理解し合うこととする関係性が形成されることの大切さを再認識しました。

私自身、当日のグループメンバーとは今でも連絡を取り合っています。こうした個人同士のつながりが積

友愛ユニオンメンバー 小倉佑太さん 前回の韓国での交流にも参加 活発に活動している



友愛ユニオンメンバー 吉田大志さん 台湾留学で鍛えた中国語を交えての自己紹介に拍手が



み重なり、国家間の関係も少しづつ変わっていくと信じています。

国際関係論を学ぶ身として、普段は大学で理論や広い視野から見た日中関係に親しんでいます。今回改めて個人レベルで互いの文化を共有し、分かち合うことの重要性を強く感じました。5月には韓国を訪れる予定ですが、日本とは切っても切れない関係であり、隣国である中韓の若者たちと、未来をより良くするために議論を重ね、相互理解

擧上理事も各テーブルの様子をつぶさに観察。時間を忘れて話し込む様子に、笑顔がこぼれる



どのテーブルも話し声、笑い声が絶えない。さつき出会ったばかりとは思えない打ち解けた様子



を深めていきたいと考えています。

言葉の影響

小倉 佑太

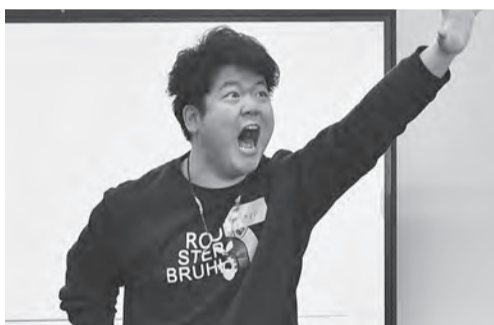
今回の交流を通して、私は人と人を繋げる言語の影響力の大きさを再認識することができました。

千代田国際語学院には日本語の学習をする中で、日本文化や伝統を学び、それを実際に体験したいと話す

事業担当の擧上理事、大活躍の場。身体を使ったじゃんけんのようなゲームを紹介。全員で大はしゃぎ



ミュージカル「ジギル&ハイド」から「対決」を見事な演技と声量で披露してくれた 劉馬辰さん



学生さんが多くいらつしやいました。言語を通して日本を知り、さらに経験しようとする彼らの熱い思いに触れて、改めて私自身も日本文化の魅力を感じることもできました。

さらに文化体験を通して得た人と人の繋がりを彼らはとても大切にしており、まさに言語が人々を繋げる実際に垣間見たように感じました。

また日本語が得意ではなく、今はまだ中国語しか話すことができない学生さん

各テーブルの発表も、友愛ユニオンメンバー、千代田国際語学院の学生共同で行った



裏方に徹した北島貴央さん(写真右端)は、各テーブルを回り、ディスプレイをエスコート



もいらつしやって、手振りや身振りで自分の思いや感情を伝えようとする様子は、私たちと「心」を分かち合いたいという強い意思を感じました。

私はまだ中国を訪問したことはなく、まさに未知の世界でしたが、彼らの話を聞くうちに実際に訪問してより体験したいという気持ちが高まりました。(思い叶ってこの感想文を認める直前、中国を訪問できました。素晴らしい体験でした)

こうした言語学習を通してできた繋がりは、さらに広い世界への足がかりとなり、私たち若者同士の繋がりを押し広げ、より強固にしてくれると感じました。

私自身もこれから中国語を学習して、今回の出会いをはじめ、様々な機会の出会いと縁を大事に、さらにダイブな会話を楽しめるよう努力していきたいと思

ました。

裏方の目線で

北島 貴央

今回の千代田国際語学院の生徒とのディスプレイでは、直接議論には参加せず、裏方としてサポート役を務めていました。

そんな一歩引いた目線ではありましたが、各テーブルの参加者が、時間と共に相互理解を深めて行く様子を間近に感じることができ、非常に印象的な出来事で、同年齢の立場ながら胸が熱くなる光景でした。

私も昨年の韓国・全州大

学校訪問の際のテーブルディスプレイも第一言語も違う中で意思疎通を図ることは、そう簡単ではないことを実感しています。

しかし、各テーブルの皆さんがお互いに、積極的な自己開示を経て打ち解けていく姿はとても頼もしく見えました。外国人にとって難しい行政手続きや電車の乗り方など、相互に共感・

興味を示せる話題で一体感が生み出されていたようにも感じられました。最後になりましたが、企画・運営くださった方々には心より感謝申し上げます。

私たちがユニオンのメンバーにとって、大きな収穫となる出会い、交流でした。

次回は自らディスプレイに参加し、友愛理念の一つ「相互理解」を体現したいと思いをしました。

2024年度OEJAB派遣員

元気に出発・期待に胸と鞆を膨らませて

3月1日出発・3月10日帰国

3月1日(土)羽田空港から2024年度OEJAB派遣員6名が、元気に飛び立っていった。

今回は男子学生4名、女子学生2名という初めての構成で、既に何回かの勉強会、交流を経てすっかり意気投合しているグループである。団長を務める須黒さんと、全員が協力態勢万端

と元気に。写真左から西川理事、木島優美さん、尾田夏野さん、中田事務局長、須黒正也さん、坪山 倫さん、佐々木太一さん、岩岡優太さん、井田理事



現地では昨年来日したOEJABの派遣員との交流も予定されており、実り多い訪問となるだろう。

空港での待ち時間の間、ウィーンへ帰るといふ学生さんと出合い早速情報収集。友愛ユニオンの交流

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。

一行はCTBTOを始め、日本国連本部への訪問など、貴重な機会がOEJABの協力で予定されている。また、OEJABが運営する難民施設も訪問予定で、期待を寄せる派遣員も多い。



世界に飛び出して活動！新しい体験を！



その一歩が新たな世界をひらく

日本代表 青年募集

2025年度 内閣府青年国際交流事業

対象年齢
18歳～30歳等

【募集期間】
2025年 2/3(月) — 4/18(金)



東南アジア青年の船

世界青年の船

国際社会青年育成

日中青年親善交流

日韓青年親善交流

申込・詳細はHPから

内閣府 青年国際交流



2025年度内閣府青年国際交流事業 心躍る様々な体験が待っています 挑戦のチャンスです！

内閣府が実施する青年国際交流事業の内容が発表された。本財団でもこの事業の推進に協力し、毎年機関紙「友愛」紙上で、募集案内を掲載している。それぞれ場所も内容も異なる5つの事業が企画されている。下記のQRコードからアクセスすると、各事業の詳細、日程などが詳しく記されている。この機会に是非、貴重な体験を目指して新たな世界に飛び出してみませんか。友愛の理念を掲げて世界に挑戦です。

詳しくはこちらにアクセスしてご確認ください



資料室公開中

友愛の歴史と活動の資料が揃っています

友愛創立70周年を記念して、資料室が設置され、様々な資料が順次整備されています。資料室は、公益財団法人友愛事務局のあるビルの4階にあります。70年に及ぶ友愛の歴史と活動を手にとって見ることができます。たとえば、機関紙「友愛」創刊号から現在に至るまでの全ての実物、植林活動の豊富な写真、クーデンホールファレル



ギー伯の著書初版本、鳩山一郎先生の「自由と人生」初版本など貴重な書物に触れることができます。ご利用ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

2024年度年会費納入のお願い

今回の機関紙には年会費の振り込み用紙を同封しております。これは2024年度分の振込用紙で、現在入金の確認ができない方にお届けしております。公益財団法人友愛は皆さまからの会費(寄付)で運営されています。ご協力をお願い申し上げます。

- * 4月1日以降のご入金も2024年度会費としてお取り扱いさせていただきます。
- * ご不明な点は事務局までお問い合わせください

編集後記

◆春の息吹をどんなところ感じますか？ 沈丁花の花香る頃・卒業式の常套句。最近沈丁花見ませんね。梅は咲いたか桜はまだかいな。何て歌いながら待つ春。そう確実に季節は巡り、春は来ています。身近な所にある桜(ソメイヨシノ)の木を見てください。蕾付いてますよ。日当たりの良いところでは、かなり膨らんで可愛い桜色の顔をのぞかせています。土手の際を見てください。冬の間見かけなかったアザミが、ちよこちよこ動いています。露の臺も見かけます。小さな変化を楽しむと、結構季節感溢れています。ゆっくり散歩すると、健康にも良く一石二鳥です。(も)